

《担当者名》 榊原健一 柳田早織

【概要】

この科目では、音声の生成の仕組み、特徴、記述の方法を学ぶ。

【学修目標】

コミュニケーション障害の臨床と研究に必要不可欠な音声学の基礎概念と基本スキルを身に付ける。具体的な学習目標は次のとおり。

1. ヒトの音声コミュニケーション、発声の概略について説明できる。
2. 発声発話における呼吸器、喉頭、声道などの発声器官の名称と機能について簡潔に説明できる。
3. 音素、単音の概念、国際音声字母（IPA）の分類基準について説明できる。
4. 日本語の母音、子音の調音を国際音声字母の方法に基づき記述できる。
5. 健常日本語発話、単純な音の置換のある発話について、IPAを用いて簡略音声表記することができ、使用するIPAシンボルの意味が説明できる。
6. 使用するIPAシンボルの示す単音の発声のメカニズムと音響的特徴を説明できる。
7. 音と音が連続して発話されるとき現れる現象を簡単に記述できる。
8. 音素とは何か、及び音声表記と音素表記の違いを説明できる。
9. 音節とモーラの意味と違いを説明できる。
10. 発話の超分節的特徴がどのような情報を伝えるのか説明でき、アクセント、イントネーションのメカニズムを簡単に記述できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーションおよび音声学とは何か；発声発話器官の解剖と生理	1. 授業の目標と全体の流れを把握する。 2. 音声学とはどういう学問領域か説明できる。 3. 解剖学における基本的な用語を述べるができる。 4. 発声における音源フィルタ理論の概要を説明できる。	榊原健一 柳田早織
2	発声発話器官の解剖	1. 喉頭の定義を説明し、枠組みを構成する軟骨の名称、形状を説明できる。 2. 声帯の生理学的構造、声門の内転、外転運動の仕組みを説明できる。	榊原健一
3	発声発話器官の解剖	1. 調音とは何かを説明できる。 2. 調音器官の名称を述べるができる。 3. 調音器官の動くメカニズムについて説明できる。	榊原健一
4	IPA（国際音声記号）と母音の調音	1. 国際音声記号の分類の概要を説明できる。 2. 母音とは何か説明できる。 3. 子音とは何か説明できる。 4. IPAにおける母音分類の方法を母音4角形と関連させて説明できる。 5. IPA母音と属性（円唇 非円唇、舌の高さ、舌の前後位置）を対応づけることができる。 6. 日本語東京方言の母音の属性を記述でき、これを音声表記できる。	榊原健一
5 6	子音の調音	1. IPAにおける子音分類の方法をIPA子音表（肺気流音）に基づいて説明できる。 2. 日本語の子音の属性（調音方法、調音位置、有声無声）を説明できる。	榊原健一
7	副次調音、調音結合	1. 日本語に現れる副次調音のメカニズムについて説明できる。 2. 副次調音とIPA音声記号を対応づけることができる。 3. 日本語に現れる二重長音のメカニズムについて説明できる。 4. 二重調音とIPA音声記号を対応づけることができ	榊原健一

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		る。 5. 調音結合を説明でき、日本語における具体例を上げることができる。	
8	音素表記と音声表記	1. 音素とは何かを説明できる。 2. 音素表記と音声表記の違いを異音の例を挙げて説明できる。 3. 最小対、条件付異音、相補分布、自由異音について説明できる。	榊原健一
9	音節とモーラ	1. 音節とは何か、モーラとは何かを説明できる。 2. 日本語発話においてモーラの果たしている役割を記述できる。 3. モーラの数え方と音節の数え方の違いを例を挙げて説明できる。	榊原健一
10) 12	日本語の音声	1. 日本語(東京方言)の母音、子音、特殊モーラをIPAを用いて表記できる。 2. 標準的な日本語発話(単語)を聞いてこれらを音声表記できる。 3. 音声表記に用いる音声記号の調音方法、調音位置、有声無声を述べるができる。 4. 無声化について説明できる。	榊原健一
13	超分節の特徴	1. 超分節の特徴、分節の特徴について説明できる。 2. プロソディ(韻律)および音声言語の持つ情報について説明できる。 3. イントネーションについて説明できる。 4. アクセントについて説明できる。 5. 日本語(東京方言)の名詞のアクセント型について説明できる。 6. 動詞、形容詞、形容動詞のアクセントについて説明できる。	榊原健一
14	構音障害と音の歪み	1. 構音障害の患者の音声を聴取して、IPAで記述し、音の歪みを評価する。 2. 音の生成メカニズムを参考にして、音の歪みの傾向、特徴について考察をおこなう。	柳田早織
15	実験音声学の方法	主な調音の計測方法についてその特徴を説明できる。	榊原健一

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部(研究科)、学校の授業実施方針による

【評価方法】

小テスト数回 計40%

期末試験 60%

【教科書】

斎藤純夫 著 「日本語音声学入門」 三省堂 2006年

【参考書】

Borden 他 著、廣瀬肇 訳 「新ことばの科学入門 第二版」 医学書院 2008年

苅安誠 他 編著 「改訂 音声障害」 建帛社 2012年

Lagefoged, P. 他 著

上野善道 編 「朝倉日本語講座 音声・音韻」 朝倉書店 2003年

ゼムリン 著 「言語聴覚学の解剖生理」 医歯薬出版 2007年

【学修の準備】

授業の予習として、教科書の中で次の授業の範囲に該当する箇所を読んでくること。また、配布された資料について予習復習をおこなうこと。前半に講義する喉頭の解剖は、解剖生理学の教科書も参考にすること。1コマの講義に関し、予習、復習は合わせて160分以上おこなうこと。本学で使用する学修管理システムを用いて資料や動画などの提示、課題提出などの学修管理をおこなう。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）言語聴覚士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。